

1975年 大会記録

国際

◇モンゴル国歳トーナメント＝フリースタイル(3月7～9日、モンゴル・ウランバー

トル)

▼48kg級 長野＝2位、▼52kg級 齊藤＝6位、▼57kg級 石井、▼62kg級 三須＝5位、▼68kg級 石渡、▼74kg級 小出＝6位、▼82kg級 大橋、▼90kg級 小松崎＝7位、▼100kg以上級 磯貝＝6位

◇世界ジュニア選手権(8月12～17日、ブルガリア・ハスコボ)

《フリースタイル》▼48kg級 朝倉利夫(国士舘大)＝四失、▼52kg級 丸山末吉(国士舘大)＝優勝、▼57kg級 川村昌司(日体大)＝二失、▼62kg級 藤田良穂(中大)＝五失、▼68kg級 中村伸(国士舘大)＝四失、▼74kg級 川田勝也(日大)＝6位、▼82kg級 太田章(秋田・秋田商高)＝3位、▼90kg級 谷津嘉章(日大)＝6位、▼100kg級 大湊康訓(中大)＝5位、▼100kg以上級＝出場なし

《グレコローマン》▼48kg級 藤本賢一(山口・桜ヶ丘)＝2位、▼52kg級 安田昭司(大東大)＝四失、▼57kg級 藤田康隆(日体大)＝三失、▼62kg級 西依道雄(日体大)＝二失、▼68kg級 木許勝弘(日体大)＝二失、▼74kg級 鈴木寛(法大)＝二失、▼82kg級 小出日出男(早大)＝二失、▼90kg級 寺井二美男(八戸工大)＝二失、▼100kg級 蓑島勇司(日大)＝二失、▼100kg以上級 宮安晋(東京・国士舘高)＝二失

◇プレ五輪(8月20～23日、カナダ・モントリオール)

《フリースタイル》▼48kg級 清水清人(日体大)＝優勝、▼52kg級 船津薫(東洋大)＝優勝、▼57kg級 江藤正基(自衛隊)＝2位、▼62kg級 宮原章(松永製あん)＝優勝、▼68kg級 七尾秀敏(本田技研)＝優勝、▼74kg級 出河満男(自衛隊)＝優勝、▼82kg級 畠山仁美(自衛隊)＝3位、▼90kg級 藤田芳広()＝3位、▼100kg級 清水一夫(大東大)＝3位、▼100kg以上級 石井信也()＝二失

《グレコローマン》▼48kg級 大西浩三(宮崎県教委)＝優勝、▼52kg級 大西浩三(宮崎県教委)＝二失、▼82kg級 佐藤貞雄(大東大教)＝3位

◇世界選手権(9月15～21日、ソ連・ミンスク)

《フリースタイル》▼48kg級 工藤章（専大）＝4位、▼52kg級 高田裕司（日体大）＝優勝、▼57kg級 荒井政雄（斎藤道場）＝優勝、▼62kg級 前川健吉（自衛隊）＝三失、▼68kg級 菅原弥三郎（国士舘大教）＝6位、▼74kg級 伊達治一郎（国士舘大教）＝3位、▼82kg級＝出場なし、▼90kg級 鎌田誠（自衛隊）＝二失、▼100kg級 斎藤真（千葉・浦安高教）＝二失、▼100kg以上級＝出場なし

《グレコローマン》▼48kg級 石田和春（小玉合名）＝三失、▼52kg級 平山紘一郎（自衛隊）＝4位、▼57kg級 長内清一（日体大）＝二失、▼62kg級 宮原照彦（鹿児島・鹿児島実高教）＝二失、▼68kg級 小林武（自衛隊）＝6位、▼74kg級 長友寧雄（警視庁）＝二失、▼82kg級 伊沢厚（警視庁）＝二失、▼90kg級 藤森安一（日体大）＝二失、▼100kg級 秋山安成（自衛隊）＝二失、▼100kg以上級＝出場なし

《サンボ》▼52kg級 山田俊二（自衛隊）、▼57kg級 菅芳松（自衛隊）＝5位、▼62kg級 田上高（鹿児島・伊佐農林高教）＝3位、▼68kg級 名和孝徳（拓大）＝4位、▼74kg級 新和己（拓大）＝5位、▼82kg級 松永義雄（東海大教）＝2位、▼90kg級 森山誠（東海大教）＝5位、▼100kg級 藤春孝志（東海大）＝4位、▼100kg以上級 横倉安雄（千葉・千葉商高教）

国内

◇全国高校選抜大会（4月4～5日、新潟・新潟市体育館）

《学校対抗戦》[1] 茨城・土浦日大、[2] 北海道・岩見沢農、[3] 栃木・足利工大付、青森・八戸工

《個人戦優勝者》▼48kg級 丸山信男（新潟・新潟東工）、▼52kg級 富山英明（茨城・土浦日大）、▼56kg級 伊藤正男（新潟・新潟東工）、▼60kg級 海老沢正道（茨城・土浦日大）、▼65kg級 新妻和彦（宮城・仙台育英）、▼70kg級 久慈博文（青森・八戸工大付）、▼70kg以上級 石井恵次（茨城・土浦日大）

◇東日本学生リーグ戦（4月23～25日・5月21～22日、東京・駒沢体育館）

《順位》[1] 国士大（2年連続2度目）、[2] 専大

（A組順位）[1] 国士大、[2] 明大、[3] 日大、[4] 中大、[5] 拓大、[6] 早大

（B組順位）[1] 専大、[2] 日体大、[3] 大東大、[4] 東洋大、[5] 八戸工大、[6] 東農大

◇第1回全日本大学選手権（5月4～5日、東京・早稲田記念館）

《優勝者》▼48kg級 朝倉利夫（国士舘大）、▼52kg級 高田裕司（日体大）、▼57kg級 山路明（国士舘大）、▼62kg級 上田保隆（日体大）、▼68kg級 小泉清一（国士舘大）、▼74kg級 小柳美代志（明大）、▼84kg級 高西一宏（国士舘大）、▼90kg級 清水一夫（大東大）、▼90kg以上級 平田靖之（国士舘大）

《大学対抗得点》[1] 日体大、[2] 国士舘大、[3] 明大

◇西日本学生春季リーグ戦（5月23～25日、大阪・大阪府立体育会館）

《順位》[1] 大体大（2季ぶり2度目）、[2] 福岡大、[3] 近大、[4] 同志社大、[5] 桃山学院大、[6] 中京大

◇西日本学生春季新人戦（6月1日、大阪・桃山学院大）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 大西司人（関大）、▼52kg級 森表芳一（近大）、▼57kg級 時田健次郎（近大）、▼62kg級 西田義夫（同志社大）、▼68kg級 中谷安典（同志社大）、▼74kg級 中岡正作（近大）、▼82kg級 井戸量太（近大）、▼82kg以上級 堀之内大介（同志社大）

※フリースタイルのみ

◇全日本選手権（6月5～8日、東京・早大記念会堂）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 工藤章（専大）、▼52kg級 高田裕司（日体大）、▼57kg級 荒井政雄（斎藤道場）、▼62kg級 梁正模（韓国）、▼68kg級 菅原弥三郎（国士大）、▼74kg級 出河満男（自衛隊）、▼82kg級 茂木優（秋田・秋田商高教）、▼90kg級 鎌田誠（自衛隊）、▼100kg級 斉藤真（千葉・浦安高教）、▼100kg以上級 磯貝頼秀（ゼネラル石油）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 石田和春（小玉合名）、▼52kg級 平山紘一郎（自衛隊）、▼57kg級 長内清一（青森・八戸商高教）、▼62kg級 宮原照彦（鹿児島・鹿児島実高教）、▼68kg級 小林武（自衛隊）、▼74kg級 長友寧雄（警視庁）、▼82kg級 伊沢厚（警視庁）、▼90kg級 藤森安一（日体大）、▼100kg級 秋山安成（自衛隊）、▼100kg以上級 松永清志（日体大）

◇東日本学生春季新人戦（6月12～15 東京・青少年総合センター）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 福山雄二（日体大）、▼52kg級 碓桂輔（国士舘大）、▼57kg級 佐藤和夫（中大）、▼62kg級 中丸早男（大東大）、▼68kg級 中村伸（国士舘大）、▼74kg級 井坂二郎（法大）、▼82kg級 清水輝夫（専大）、▼90kg

級 谷津嘉章（日大）、▼90kg 級以上 松永清志（日体大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg 級 福山雄二（日体大）、▼52kg 級 藤谷礼二（専大）、▼57kg 級 藤田隆康（日体大）、▼62kg 級 西依道雄（日体大）、▼68kg 級 中村伸（国士舘大）、▼74kg 級 川田勝也（日大）、▼82kg 級 清水輝夫（専大）、▼90kg 級 寺井二三男（八戸工大）、▼90kg 級以上 松永清志（日体大）

◇全日本社会人選手権（6月21～22日、埼玉・朝霞自衛隊）

《団体戦・官公庁対抗優勝》自衛隊A、《同・実業団対抗優勝》三信電気、《同・クラブ対抗優勝》三重クラブ、《同・三部対抗優勝》自衛隊A

《フリースタイル優勝者》▼48kg 級 高村勝義（三重県庁）、▼52kg 級 苅場勇光（自衛隊）、▼57kg 級 吉田栄勝（三重県庁）、▼62kg 級 大舘（斎藤道場）、▼68kg 級 平松義高（自衛隊）、▼74kg 級 七尾（本田技研）、▼82kg 級 伊藤勝春（秋田ク）、▼90kg 級 鎌田誠（自衛隊）、▼100kg 級 金子（木口道場）、▼100kg 以上級 森康哲（自衛隊）

《グレコローマン優勝者》▼48kg 級 高村勝義（三重県庁）、▼52kg 級 宇野勝彦（三重県庁）、▼57kg 級 吉田栄勝（三重県庁）、▼62kg 級 平井一十司（自衛隊）、▼68kg 級 高瀬義郎（自衛隊）、▼74kg 級 長友寧雄（警視庁）、▼82kg 級 伊沢厚（警視庁）、▼90kg 級 藤田芳弘（和歌山県教委）、▼100kg 級 秋山安成（自衛隊）、▼100kg 以上級=参加なし

◇西日本学生選手権（6月27～29日、大阪・大阪府立体育会館別館）

《フリースタイル優勝者》▼48kg 級 森表芳一（近大）、▼52kg 級 村上梅春（大体大）、▼57kg 級 平田義幸（同志社大）、▼62kg 級 山本光蔵（名城大）、▼68kg 級 高田文孝（近大）、▼74kg 級 B・デンケン（カナダ・WA大）、▼82kg 級 C・デラハント（カナダ・BC大）、▼82kg 以上級 G・リッチー（カナダ・BC大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg 級 窪田隆一（大体大）、▼52kg 級 村上梅春（大体大）、▼57kg 級 滝井延夫（大体大）、▼62kg 級 松井堅一（大体大）、▼68kg 級 高田文孝（近大）、▼74kg 級 井尻裕信（近大）、▼82kg 級 高橋勝人（近大）、▼82kg 以上級 G・リッチー（カナダ・BC大）

◇世界ジュニア選手権代表選考会（7月4～6日、東京・青少年総合センター）

《フリースタイル優勝者》▼48kg 級 朝倉利夫（国士舘大）、▼52kg 級 丸山末吉（国

士館大)、▼57kg級 川村昌司(日体大)、▼62kg級 藤田良穂(中大)、▼68kg級 中村伸(国士館大)、▼74kg級 川田勝也(日大)、▼82kg級 太田章(秋田・秋田商高)、▼90kg級 谷津嘉章(日大)、▼100kg級 大湊康訓(中大)、▼100kg以上級 森康哲(自衛隊)

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 藤本賢一(山口・桜ヶ丘)、▼52kg級 安田昭司(大東大)、▼57kg級 藤田康隆(日体大)、▼62kg級 西依道雄(日体大)、▼68kg級 木許勝弘(日体大)、▼74kg級 鈴木寛(法大)、▼82kg級 小出日出男(早大)、▼90kg級 寺井二美男(八戸工大)、▼100kg級 蓑島勇司(日大)、▼100kg以上級 宮安晋(東京・国士館高)

◇インターハイ(8月2～5日、東京・日大講堂)

《学校対抗戦》[1] 茨城・土浦日大、[2] 東京・京北、[3] 栃木・足利工大付、長崎・島原工

《個人戦優勝》▼48kg級 藤本賢一(山口・桜ヶ丘)、▼52kg級 富山英明(茨城・土浦日大)、▼56kg級 中井孝次(東京・京北)、▼60kg級 海老沢正道(茨城・土浦日大)、▼65kg級 渡部友幸(福島・田島)、▼70kg級 小柳義人(秋田・秋田商)、▼75kg級 石井恵次(茨城・土浦日大)、▼75kg以上級 太田章(秋田・秋田商)

◇全日本学生選手権(9月2～5日、大阪・大阪府立体育会館)

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 藤沢信雄(大東大)、▼52kg級 丸山末吉(国士館大)、▼57kg級 金子博(明大)、▼62kg級 我如古和徳(日大)、▼68kg級 小泉清一(国士館大)、▼74kg級 小笠原寛(八戸工大)、▼82kg級 高西一宏(国士館大)、▼90kg級 清水一夫(大東大)、▼90kg級以上 大湊康訓(中大)

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 森脇由比(日体大)、▼52kg級 京田修(日大)、▼57kg級 山路明(国士館大)、▼62kg級 堀井健一(国士館大)、▼68kg級 小泉清一(国士館大)、▼74kg級 鈴木寛(法大)、▼82kg級 高西一宏(国士館大)、▼90kg級 沢田修(大東大)、▼90kg級以上 平田靖之(国士館大)

◇全日本学生王座決定戦(10月5～6日、東京・青少年総合センター) = 決勝成績

国士館大○ [6-3] ●日体大

※国士館大は2年連続2度目の優勝

◇東日本学生グレコローマン選手権() = 決勝成績

※

◇西日本学生秋季新人戦（10月11～12日、大阪・桃山学院大）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 山口景司（桃山学院大）、▼52kg級 松岡伸次（近大）、▼57kg級 境木幹治（ ）、▼62kg級 高田和弘（大体大）、▼68kg級 西田義夫（同志社大）、▼74kg級 山口博正（福岡大）、▼82kg級 高橋勝人（近大）、▼82kg以上級 堀之内大介（同志社大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 山口景司（桃山学院大）、▼52kg級 松岡伸次（近大）、▼57kg級 森表芳一（近大）、▼62kg級 高松聖（近大）、▼68kg級 西田義夫（同志社大）、▼74kg級 石見勝宏（大体大）、▼82kg級 高橋勝人（近大）、▼82kg以上級 堀之内大介（同志社大）

◇国体（10月27～30日、三重県伊勢市・三重県立体育館）

《成年フリースタイル優勝者》▼48kg級 藤沢信雄（静岡・大東大）、▼52kg級 高田裕司（群馬。日体大）、▼57kg級 田中忠道（福岡・福岡大教）、▼62kg級 堀井健一（秋田・国士舘大）、▼68kg級 小泉清一（青森・国士舘大）、▼74kg級 伊達治一郎（東京・国士舘大教）、▼82kg級 茂木優（秋田・秋田商高教）、▼90kg級 鎌田誠（埼玉・自衛隊）、▼100kg級 清水一夫（岡山・大東大）、▼100kg以上級 磯貝頼秀（千葉・ゼネラル石油）

《成年グレコローマン優勝者》▼48kg級 平田茂（鹿児島・国士舘大）、▼52kg級 村上梅春（島根・大体大）、▼57kg級 七尾秀樹（埼玉・自衛隊）、▼62kg級 荒井富男（茨城・水戸南高教）、▼68kg級 小林武（埼玉・自衛隊）、▼74kg級 野口次男（鹿児島・自衛隊）、▼82kg級 高西一宏（徳島・国士舘大）、▼90kg級 藤田芳弘（和歌山・和歌山高教）、▼100kg級 秋山安成（三重・久居自衛隊）、▼100kg以上級 矢田静雄（和歌山・粉河高教）

《少年フリースタイル優勝者》▼48kg級 池田均（秋田・秋田経法大付）、▼52kg級 富山英明（茨城・土浦日大）、▼56kg級 岩崎弥太郎（宮城・仙台育英）、▼60kg級 館岡正（秋田・五城目）、▼65kg級 平野代一（千葉・浦安）、▼70kg級 小柳義人（秋田・秋田商）、▼75kg級 石井恵次（茨城・土浦日大）、▼81kg級 太田章（秋田・秋田商）、▼87kg級 山本博（栃木・足利工大付）、▼87kg以上級 木下敏行（静岡・修善寺工）

《少年グレコローマン優勝者》▼48kg級 藤本賢一（山口・桜ヶ丘）、▼52kg級 河村稿一郎（山口・桜ヶ丘）、▼56kg級 本領博幸（富山・高岡商）、▼60kg級 藤間則文（埼玉・飯能）、▼65kg級 渡辺友幸（福島・田島）、▼70kg級 新井真澄（埼玉・飯能）、▼75kg級 小野寺康員（池田工）、▼81kg級 藤村哲文（山口・桜ヶ丘）、▼87kg級 福島博（松井田）、▼87kg以上級 小松浩（三重・宇治山田）

◇東日本学生秋季新人戦（11月12～15日、東京・青少年総合センター）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 朝倉利夫（国士舘大）、▼52kg級 富田俊三（日体大）、▼57kg級 佐藤勉（専大）、▼62kg級 多賀恒雄（明大）、▼68kg級 高橋恒弘（専大）、▼74kg級 海沼邦彦（八戸工大）、▼82kg級 木村年貴（日体大）、▼90kg級 藤森安一（日体大）、▼90kg級以上 松永清志（日体大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 吉田三修（東洋大）、▼52kg級 碓桂輔（国士舘大）、▼57kg級 藤谷礼二（専大）、▼62kg級 藤田隆康（日体大）、▼68kg級 西依道雄（日体大）、▼74kg級 鈴木寛（法大）、▼82kg級 小出日出夫（早大）、▼90kg級 藤森安一（日体大）、▼90kg級以上 松永清志（日体大）

◇西日本学生秋季リーグ戦（11月22～24日、大阪・大阪府立体育会館別館）

《順位》[1] 大体大（2季連続3度目）、[2] 福岡大、[3] 近大、[4] 桃山学院大、[5] 同志社大、[6] 中京大

◇モンテリオール五輪第1次選考会（12月1～4日、東京・青少年総合センター）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 工藤章（専大）、▼52kg級 高田裕司（日体大）、▼57kg級 佐々木禎（日体大）、▼62kg級 前川健吉（自衛隊）、▼68kg級 平松義高（自衛隊）、▼74kg級 伊達治一郎（国士舘大教）、▼82kg級 茂木優（秋田・秋田商高教）、▼90kg級 鎌田誠（自衛隊）、▼100kg級 清水一夫（大東大）、▼100kg以上級 磯貝頼秀（ゼネラル石油）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 平田茂（国士舘大）、▼52kg級 平山紘一郎（自衛隊）、▼57kg級 長内清一（日体大）、▼62kg級 堀井健一（国士舘大）、▼68kg級 小林武（自衛隊）、▼74kg級 長友寧雄（警視庁）、▼82kg級 高西一宏（国士舘大）、▼90kg級 佐藤貞雄（大東大教）、▼100kg級 秋山安成（自衛隊）、▼100kg以上級 松永清志（日体大）